

子どもに関する100の知識



目次

- 【1】はじめに
 - 1.当講座について
 - 2.子育てとは？
 - 3.発達とは？
 - 4.自立とは？
 - 5.性格とは？
 - 6.思いやりとは？
- 【2】母親
 - 1.産後うつ
 - 2.マタニティー・ブルーズ
 - 3.子どもの命名
 - 4.育児不安
 - 5.両親の役割
 - 6.女性の役割変化
 - 7.ママ友
 - 8.ライフサイクル
 - 9.アイデンティティ
- 【3】乳幼児の発達
 - 1.愛着
 - 2.マターナル・デプリベーション
 - 3.分離一体化
 - 4.発語の発達の目安
 - 5.社会行動の発達の目安
 - 6.ピアジェの発達段階説
 - 7.公園デビュー～遊び～
- 【4】発達の問題
 - 1.発達水準の不安
 - 2.知能・知的障害
 - 3.ダウン症
 - 4.自閉性障害・自閉症
 - 5.アスペルガー障害（症候群）
 - 6.注意欠陥多動性障害（ADHD）
 - 7.学習障害（LD）
 - 8.チック
 - 9.吃音
 - 10.場面緘黙
- 【5】学習
 - 1.レディネス
 - 2.モデリング
 - 3.学習性無力感
- 【6】虐待
 - 1.身体的暴力
 - 2.性的虐待
 - 3.ネグレクト（養育放棄）
 - 4.心理的虐待
 - 5.被虐待者に対する心理的介入
 - 6.ミュンヒハウゼン症候群
- 【7】家族の問題
 - 1.世代間伝達
 - 2.機能不全家族
 - 3.アダルトチルドレン
 - 4.キッチンドリinker（アルコール依存症）
 - 5.家庭内暴力（DV）
 - 6.体罰
 - 7.モラルハラスメント
 - 8.夫婦喧嘩
 - 9.離婚
 - 10.シングルマザー
 - 11.自己愛
 - 12.共依存
 - 13.転居
- 【8】家庭での問題
 - 1.夜尿
 - 2.夜驚・悪夢
 - 3.門限破り
 - 4.TVゲーム・ネットゲーム
 - 5.携帯電話
 - 6.チェーンメール
 - 7.ブログ・プロフ
 - 8.ひきこもり
- 【9】学校での問題
 - 1.反抗期
 - 2.ギャングエイジ
 - 3.不登校
 - 4.非行
 - 5.いじめ
 - 6.秘密・嘘
 - 7.万引き
 - 8.学校裏サイト

【10】学校と親

- 1.PTA
- 2.モンスターペアレント
- 3.お受験
- 4.学歴
- 5.偏差値

【11】性の問題

- 1.第二次性徴・SEX
- 2.出会い系
- 3.援助交際
- 4.ブルセラ
- 5.痴漢

【12】問題行動

- 1.自傷行為
- 2.大量服薬
- 3.自殺企図
- 4.犯罪

【13】精神疾患

- 1.統合失調症
- 2.気分障害
- 3.社会不安障害
- 4.強迫性障害
- 5.摂食障害
- 6.性同一性障害
- 7.離人症性障害
- 8.トラウマ

【13】精神分析的理論

- 1.分離不安
- 2.退行
- 3.コンプレックス

【14】社会資源

- 1.児童相談所
- 2.児童家庭支援センター
- 3.保育所
- 4.児童館
- 5.学童クラブ
- 6.保健所・保健センター
- 7.民生委員・児童委員・主任児童委員
- 8.乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設・養育家庭
- 9.警察

- 10.女性相談センター
- 11.母子生活支援施設
- 12.発達障害者支援センター
- 13.精神保健福祉センター
- 14.自助グループ
- 15.親の会
- 16.青少年センター

【15】校内資源

- 1.保健室
- 2.学童保育
- 3.特別支援学級
- 4.適応指導教室
- 5.メンタルフレンド
- 6.スクールカウンセラー

【16】方法的資源

- 1.乳幼児健康診断
- 2.子どもへの暴力防止プログラム
- 3.TEACCH プログラム
- 4.ペアレント・トレーニング

【17】その他

- 1.ノーマライゼーション
- 2.欲求階層説

【18】Q&A

- 1.すぐ泣く
- 2.癩癩を起こす
- 3.食べ物の好き嫌いが多い
- 4.何をやらせても不器用
- 5.乱暴で困る
- 6.べったり甘える
- 7.注意しても片付けない
- 8.落ち着かなくて危なっかしい
- 9.笑わない
- 10.他の子と遊ばない
- 11.宿題をやらない
- 12.こだわりがある
- 13.嘘をつく
- 14.思いやりがない
- 15.自分を叩く
- 16.言うことをきかない

【はじめに】

当講座について

子どもが健やかに成長できる環境を用意できる母親となる為のプログラムです。対象となるのは次のような方々です。

- ・妊娠、出産を控えている方
- ・発達障害の子どもを育てている方
- ・子どもの発達について理解したい方
- ・子どもに関わるお仕事をされている方
- ・母親をサポートする方

こうした方々が、子どもの心の成長や人格形成の仕組みを知り、子どもへの関わり方を学んでいってくださればと思います。人は子供に限らず自分自身が自分自身でいられる安全基地を求めます。安全基地を持つと、冒険に出て色々な体験をし、成長していきます。安全基地に決まった場所はありませんが、初めての安全基地となる場所は家庭であり、それは主に、場所というよりも対象、つまり母親のそばということになります。人は成長していく中で、家庭のほかに、いくつものコミュニティに参加してゆきますが、そのコミュニティ構造の中で人々と触れあい色々な体験をしていく、いわゆる「冒険」を通して、精神的成長をしてゆくということが出来ます。この冒険先は、学校であったり、公園であったり、友達の家であったり、習い事であったりします。そして、それぞれの集団の中で自分がどうあるべきかを経験していき、自我を形成し自信を持っていくことが出来るようになっていくのです。

子育てとは？

例えば、「たえず勉強に励み、どんな時も人に思いやりをもって接し、多くの良い友達に囲まれ、一つのことを成し遂げるような子どもになってほしい」という親の希望と、「興味をもって勉強したいことを見つけ、どんな時も人に暴力を振るわず、気の合う友達に出会い、小さな幸せを実感できるような子どもになってほしい」という親の希望では、子育てにどのような違いが出ると考えられるでしょうか。前者では、親が考える子どもの最高の状態を理想としています。これを実現するには、小さな頃から勉強をするように試行錯誤し、他児との喧嘩を叱り、つきあう友達を選択させ、決して途中で習い事をやめることを許さない、そんな関わり方になるかもしれません。一方、後者では、親が人生に必要なだと考える最低限の幸せを子どもに願っています。これを実現するには、勉強の楽しさを伝え、暴力の危険性を教え、親自身の友達づきあいを見せ、家庭では日々の小さな幸せを見つけ合ったりするかもしれません。一体、どちらが充実した成長過程を辿れるでしょう。そして、その結果、子どもはどんな大人になることができるでしょう。

子育ては、子どもに幾つもの理想の枠を押し付けるということではありません。親ができることは、せいぜい、本当に望ましくない親が思っていることに、本人が向いていかないように導いていくことくらいです。ぜひ、親は自分自身の子どもの時代を思い返してみてください。自分の将来像が、親の想像の範疇にあるということに子どもは耐えられるのでしょうか。「自分の子はこうでなきゃならない」、あるいは、「自分の子なんだからこの程度」といった親の気持ちの中では、子どもがのびのびと育っていくことなど期待できません。10ある選択肢の中の1つに子どもを当てはめるのではなく、残りの9つの選択肢も含めて子どもが自発的に選んでいける、そんな安全に守られた自由な子育てこそが、子どもの可能性を最大限に生かせるのではないかと考えています。

発達とは？

最近まで、人は成人に向けて発達し、その後は衰えていくものと考えられていました。しかし、人々の



寿命が60年から80年余に延びて社会が高齢化するに従い、発達とは受胎から死までの人の心の変化である、という生涯発達の考え方に変わってきました。そうすると、発達は獲得と喪失の繰り返しであるとも言えます。死ぬ間際まで、人は何かを獲得しているという見方は大切な考え方であると思います。

親は、子どもが生まれてから、成長してゆく姿を実際に目にすることができます。しかし、成長しているのは子どもだけではありません。親自身も成長しているのです。自分が成長しているということに気がつくのはなかなか難しいものです。自分一人で考えることには限界があるので、積極的に人の意見を聞き、親自身が成長していこうと考えておくのがよいと思います。子どもを産み、育てるという経験をするということは、親自身が新たな成長の機会に立ち会っているということです。親による「子育て」は同時に、子どもによる「親育て」でもあるのです。親が子育てを通して自分自身が成長したとを感じる具体的なことには、小さなことにこだわらない柔軟さやタフさ、自分の欲求や立場を抑制でき、広い多角的な立場で、運命や信仰などを重視するとともに謙虚に受け入れ、生き甲斐と存在意義を持ち、自分の考えなどを主張できるようになる、などが挙げられます。

自立とは？

思春期・青年期は、心身ともに大きく変化する不安定な時期です。身体的変化から自分や周囲に関心が向くようになり、心理的、社会的な変化が起こります。親や教師を無条件に信頼しなくなり、親から離れようとしていきます。乳児が母乳から実際に離れることと対比させて、自立のことを「心理的離乳」と呼んだりします。また、自立には適切なタイミングというものがあり、子どもが自発的に親から離れていけることが大切です。親が子どもの自立を促進しすぎると、結果的に子どもは「親の指示に従った」と感じてしまうので、心理的に自立したことにはなりません。

性格とは？

ここでは、気質と性格と人格を区別しておきます。気質は生まれ持った先天的、遺伝的要因が大きいものであり、性格は幼児から学童期頃の後天的、環境的要因により形成され、人格は青年期頃になって気質と性格が合わさり固定された対人様式と言えます。気質について、少し古いのですが1977年にトーマスとチェスが提案した乳児の3種類の分類が今でもよく使われているので紹介します。

(1) 難しい子ども

「扱いにくい」と感じられる子どもで、乳児の10%程度にあたります。睡眠、排泄、食事などが不規則になりやすく、新しい状況にかき乱され、ぐずったり泣いたりするのが激しい子どもです。

(2) 易しい子ども

「扱いやすい」と感じられる子どもで、乳児の40%程度にあたります。親しみやすく、幸せな気分が多く、適応しやすい子どもです。

(3) 立ち上がりの遅い子ども

乳児の半数にあたり、活動水準が低く、新しい刺激に最初は否定的に反応するが、何度も出会うにつれて慣れてくる子どもです。

思いやりとは？

思いやりは、向社会的行動であり、反社会的行動の対に位置付けられます。アイゼンバーグによると、向社会的行動とは「援助行動や、分与行動、他人を慰める行動といった他者に利益となるような事を意図